

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内 文芸OGネットワーク
 Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
 代表 高橋京子 発行：2016.3.26

vol. 24



共立祭参加

秋を彩るイベント、「共立祭2015」が、2015年10月17日(土)、18日(日)の2日間にわたって開かれた。

共立祭には毎年テーマが掲げられるが、今回のテーマは「Blooming! SAKURA sienne」。共立祭運営委員会によると、sienneには「その土地の^{ジュンヌ}人」という意味も含まれているようで、共立生はもとより、来観の皆様も共に咲き誇りますように、との思いが込められているという。

本館1階のロビーや共立講堂では、合唱、吹奏楽、二胡などの音楽演奏、ダンス、ファッションショーなど各サークルの上演、発表が行われ、例年と同様に、来観のお客であふれていた。展示や模擬店などは本館と3号館

の教室が会場に充てられた。外部からのゲスト出演もあり、華やかな賑わいを呈していた。卒業生企画として文芸OGネットワークも参加した。

開催中、ときどき共立祭運営委員会のメンバーが何人かで各会場を見回って歩く姿が見かけられた。運営委員会は1年から3年までの学生で構成され、メンバーは数十人に及び、共立祭の準備と運営にあたる。

当日も会場の見回り、後片付けまで目を配るなど、陰の支援があって共立祭はつつがなく終わった。

文芸OGネットワーク展示

OGネットの会場は3号館302・303号室。今回は小さな部屋2つが割り当てられたため、やむなく「日本のミュージカル」展示と「バザー・茶菓コーナー」で部屋が分かれた。

「日本のミュージカル」展示



展示のための準備は、多田久恵さんを中心に資料整理室で行い、展示の資料は準備の日に会場に運び込んだ。テーブルを壁面につけて置き、その上にパンフレットやチラシを展示した。ポスターも、壁面にぐるりと並べ、その間に解説のパネルを配した。

会報、「文芸OGネットワーク通信」のバックナンバーも展示した。

バザー・茶菓コーナー



部屋の入口近くの半分にバザーコーナーを配し、奥の窓よりに茶菓コーナーを設けた。バザーの品はOGネット会員の皆さんから、郵送、あるいは持ち寄りで提供していただいたもの。予告の期間が短かったにもかかわらず、多くの品物が寄せられた。バザーの売り上げは69,371円であった。これは、今後のOGネットの活動費として活用させていただきます。

茶菓コーナーは奥まっではいたが、皆さんのくつろぎの場となっていたようだ。





日本のミュージカルポスター・プログラム展

今回の展示では、日本の戦後から最新の舞台に至るまでのミュージカルのポスターやプログラムなど、数々の貴重な資料が展示された。会場には、「日本のミュージカル」、「日本独自のミュージカルあるいは音楽劇」、「宝塚歌劇団のミュージカル」、「東宝制作のミュージカル」、「劇団四季のミュージカル」のタイトルで展示解説のパネルが掲示された。

今までのOGネットの文化祭参加の歴史を振りかえるとともに、今回の展示を多田久恵さんにまとめていただいた。

OG ネットが学生主体の文化祭に初めて参加したのは、2003年、設立されたその年からである。第1回は「先輩たちに続こう」というテーマのもとに、様々な分野で活躍する卒業生7名をパネルで紹介した。その翌年から、絵画、ステンドグラス、手染め、陶芸、人形制作などに携わっている卒業生たちの作品を展示、紹介してきたのであるが、2010年からは劇芸術研究室所蔵の演劇資料をお借りして、ポスター、プログラム等の展示を始めたのである。「宝塚歌劇展」「川崎照代（劇作家、1968年卒業）展」「『ハムレット』展」「河竹黙阿弥展」「近松門左衛門展」等、取り上げた作家および作品は、古今東西にまたがるものであった。

今年「日本のミュージカル」と題し、宝塚歌劇団、

劇団四季、東宝などによるミュージカル作品の展示に加えて、日本独自のミュージカルあるいは音楽劇の作品群をプログラムやポスターなどから紹介した。

1914年創立の宝塚歌劇団は、歌、踊り、芝居が一体化したミュージカルを当初から上演しているのが、ブロードウェイミュージカルの日本初演も数多い。たとえば、「オクラホマ」（1967年日本初演、以下同様に日本初演の年を示す）、「ウエストサイド・ストーリー」（1968）、「回転木馬」（1969）、「サイズ&ドールズ」（1984）などである。現在人気の高い「エリザベート」はウイーン発のミュージカルであるが、宝塚初演（1996）の後、同じ演出家による東宝制作の舞台が続き、さらなる人気を集めている。



「エリザベート」



「マイ・フェア・レディ」



「モルガンお雪」

日本で初めて上演されたブロードウェイミュージカルは「マイ・フェア・レディ」（1963）である。江利チエミと高島忠夫コンビのこの舞台は大成功をおさめ、以後東宝制作のブロードウェイミュージカル上演に弾みをつけるものであった。水色の表紙のプログラムからは菊田一夫をはじめとする制作者たちの高揚感がひしひしと伝わってくる。それ以後「王様と私」（1965）、「屋根の上のヴァイオリン弾き」（1967）、「ラ・マンチャの男」（1969）、「レ・ミゼラブル」（1987）などなど、いまなお再演を続けている作品が少なくない。

劇団四季（1953年創立）のミュージカルも根強い人気を誇っている。「ジーザス・クライスト・スーパースター」（1973）、「キャッツ」（1983）、「オペラ座の怪人」（1988）などロンドン発ミュージカルの舞台が多いが、「ウエストサイド・ストーリー」（1974）、「コーラス・ライン」（1979）、「美女と野獣」（1995）、「ライオンキング」（1998）などの人気作品はブロードウェイで生まれたミュージカ

ルであり、四季の公演は全国に広がっている。

日本独自のミュージカルあるいは音楽劇と呼ばれる作品の存在も忘れてはならない。菊田一夫作・演出、越路吹雪主演による「モルガンお雪」（1951）から始まった「帝劇ミュージカル」は、のち「東宝ミュージカル」と名前を変え、日本のミュージカルの基礎を築くものであった。

その後のいわゆる新劇や、商業演劇の分野においては、「真田風雲録」（1962）に始まり、「上海バンスキング」（1979）、「アイ・ガット・マーマン」（1987）、「李香蘭」（1991）、「アイ・ラブ・坊ちゃん」（1993）、「オケピ」（2000）、「Shock」（2012）など数多くの日本独自の作品が生まれている。今回も劇芸術研究室と卒業生有志より、貴重な演劇資料を提供していただきました。厚くお礼申しあげます。

多田久恵（S45院卒）

連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑩ —

3号館が完成した年に入学された、英文学専攻の山本廸子さんに書いていただきました。



私が共立女子大学文芸学部に入
学したのは、今から半世紀以上
前の1963年（昭和38年）のこと
でした。この年に新しく完成した校
舎は明るい陽光にあふれ、ここで始
まる学生生活の第一歩を祝福してい
るようでした。ここで精一杯努力し、
悔いの無い4年間にしようと気をひ
きしめた記憶があります。

文芸学部には2年次進級時、コース
を選択できるという独特のシステム
があり、それにより私は自分の将来
を深く考えることができ、とても幸
いでした。

高校時代、決して英語が得意では
なかった私ですが、英文学コースに
進み英米の文学を学ぶにつれ、随分

視野が広がったのではないかと
思いました。

ゼミの指導教官、外山弥生先生は
いつも明るく学ぶ楽しさを体現して
いらっしゃいました。卒業間近の集
まりの折でしたか、先生は次のよう
なことをおっしゃいました。「あなた
達はこれからの人生において、い
くつかの選択肢の中から1つを選ん
でいかなければならない時がある
と思います。選んだ後は決して後悔
することなく、これが最良の道なの
だと思って努力してください。そう
すれば人生は必ず充実したものとな
ります」と。この言葉は私の人生の
指針となりました。

朱牟田房子先生は最初の授業で全

ての学生の顔と名前を覚えていら
して、驚くと共に教師としてのある
べき姿を教えてくださいました。

その後、進学した大学院で御指導
くださいました福原麟太郎先生をは
じめ、様々な個性あふれる先生方
から多くを学びました。どの先生も
御自分の専門分野を一生かけて追
究し、その研究を心から楽しんで
いらっしゃるようでした。そのこと
から私は学問と勉強の違いに気付か
され、学ぶことの本質を理解できた
のではないかと思います。

山本廸子（旧姓：田部）（S42卒）

劇芸術資料室から

OGネットの活動の一部として、劇芸術研究室所蔵の演劇資料の整理を行っているのはすでにご存知と思いますが、今回（12月12日～1月13日）1号館のロビーでその一部が展示されました。外部の方々にも広く知ってもらおうと、劇芸術コースの近藤瑞男先生が以前学会長を務めていらした歌舞伎学会の開催（12月12、13日）に合わせ、造形芸術コースと劇芸術コースの共催で発表展示したものです。

歌舞伎、文楽で代表的な3つの演目「仮名手本忠臣蔵」
よしつねせんぼんざくら かなでほんちゆうしんぐら
「義経千本桜」 すがわらでんじゅうてならいかみ
「菅原伝授手習鑑」のポスター、プログラムを
提供したのですが、常に重ねて置いたり、ギューギューに柵
に並べられている、ポスターやプログラム達が、大きな展示
ケースの中で照明が当たると輝いて見えたのが、実に不思議
でした。

また、近藤先生所蔵の錦絵と一緒に展示されていたのもお
互いの存在感を増していたようでした。

残念なのは、展示の日程がちょうど冬休みにかかっていた
ことでした。私共の活動の一環を知ってもらうためにも、今
後もこのような発表や資料提供を続けていってほしいと思っ
ています。

川瀬治子（S52、造形芸術卒）





大学卒業後、ソフトバンクパブリッシング（現ソフトバンククリエイティブ）に就職。その後、ライブドアパブリッシングを経て、ご自身で出版社を立ち上げた窪田智子さん。今回は、窪田さん自身が編集・出版を手掛けられた新刊書籍の紹介とプレゼントのお知らせです。

? あなたを喜ばせるものは何ですか？

家庭、経済、仕事、人間関係、健康 ——。

これらすべてが満たされるとしたら、その秘訣を知りたいとは思いませんか？

本書『いつも喜んでいる人の7つの秘訣』の著者である奥田英男さんは、西東京で不動産会社と建設会社を2社経営されています。なんと31年間、黒字経営を継続されており、景気の波を受けやすい不動産、建築業界において奇蹟の会社と呼ばれています。社員は生き生きと輝いていて、お客様からも愛されている地元で評判の会社です。奥田さんご自身もご家族やお孫さんにも恵まれ、生き別れていたお母さまとの関係も回復されたそうです。さらに生命保険も全部解約してしまったほど、お元気で喜びに満たされています。

奥田さんの喜びの秘訣 —— それは、「聖書」との出会いでした。

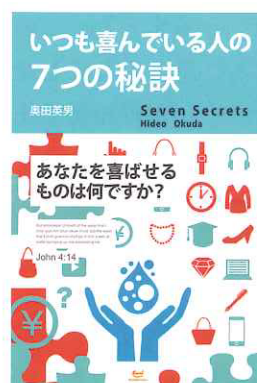
本書では、奥田さんがどのように聖書と出会い、その聖書の言葉をどのように実践されて、これほど祝福された人生を歩むことになったのか。その秘訣をご自身の経験も踏まえながらわかりやすくお伝えしています。この本の編集・出版に携わった私、窪田も、ともに学びなが

ら、祝福の人生を歩み始めています！

今回は皆さんにもその素晴らしさを知っていただきたく、5名の方に書籍をプレゼントいたします。ご希望の方は、(株) ミリオン・スマイル 窪田智子宛に、お名前、送付先ご住所、お電話番号を明記の上、Fax：050-3488-5141 もしくはinfo@million-smile.jp までご連絡ください。ご応募お待ちしております。

※応募締め切り：4月末日

窪田智子 (H8 卒)



『いつも喜んでいる人の7つの秘訣』

著者：奥田英男

発行：ミリオン・スマイル

価格：1,080円（税込）

ホームページ <http://yorokobi-lab.com/>
（よろこび研究会）

【アマゾンで絶賛販売中】

<http://www.amazon.co.jp/dp/4904940032>

広場 —— 近藤瑞男先生 最終講義 ——

共立女子大学文芸学部教授、劇芸術コースの近藤瑞男先生が、このたび、定年退職を迎えられるにあたり、最終講義が「歌舞伎は、いま」と題して、平成28年1月28日(木)、共立女子大学本館10階1008教室で行われた。

近藤先生は、以前歌舞伎学会の会長を務められ、歌舞伎の研究及び評論などで、第一人者とされ、歌舞伎に関する豊富な知識で知られる。共立には、藤木宏幸先生(OGネットが整理をさせていただいている劇芸術の膨大な資料をのこされた)に誘われて招聘されたという。授業の関連で、実際の舞台を観ることが重要とされ、歌舞伎の舞台を観る機会も多くなり、今日につながったという。今後も、何らかの形で、共立とつながりを持たれるとのこと。

先生には、OGネットも、色々とお世話になりました。今後のご活躍をお祈りいたします。

掲示板

INFORMATION

来年度の総会、サロン講座の日程、内容につきましては、4月末ごろ、改めて葉書にてご連絡させていただきます。

編集後記

EDITOR'S NOTE

文芸学部の劇芸術研究室に保管されている貴重な資料の整理を、OGネットの有志の方々が、ずっと続けてくださっていることは、皆様もご存知の事と思います。資料の数は膨大なもので、そのご尽力は大変なものと思われま。共立祭でのOGネットの展示は、その資料をお借りするので、素晴らしく、多くの人を惹きつけます。私たち会報担当者も、勉強をしながら、楽しく取材させてもらっています。(O)